

# 会議要録

会 議 名	第1回進路支援講座業務委託事業候補者選考委員会
開 催 日 時	令和6年2月7日（水曜日） 午前9時30分から午前11時まで
開 催 場 所	港区立教育センター 研修室1
委 員 員	【出席者】 三尾忠男、増淵達夫、秋田博昭、吉野達雄、篠崎玲子
事 務 局	下橋良平（統括指導主事）、加藤靖規（指導主事） 澤木俊宏、堀内遥、宮原可帆（教育支援係）
会 議 次 第	1 開会 2 委員長・副委員長の選出について 3 選考委員会選考スケジュール（案）について 4 事業候補者募集要項（案）について 5 採点基準表（案）について 6 閉会
配 付 資 料	【配付資料】 資料1 進路支援講座業務委託事業候補者選考委員会設置要綱 資料2 進路支援講座業務委託事業候補者選考委員会委員名簿 資料3 選考委員会選考スケジュール（案） 資料4 進路支援講座業務委託事業候補者募集要項（案） 別紙1 仕様書（案） 別紙2 進路支援講座業務委託事業候補者選考基準（案） 【様式1】 質問書 【様式2】 参加表明書兼参加資格審査申請書 【様式3】 共同事業体構成書 【様式3-2】 共同事業体協定書兼委任状 【様式3-3】 委任状 【様式4】 事業者概要及び業務実績 【様式5】 業務従事予定者の経歴 【様式6】 業務従事予定者の配置計画 【様式7】 企画提案書 【様式8】 見積書 【様式9】 プロポーザル参加辞退届 資料5 採点基準表（一次審査）（案） 資料5-2 採点基準表（二次審査）（案）

## 会議の結果及び主要な発言

	<p><b>1 開会</b></p>
	<p><b>2 委員長・副委員長の選出について</b></p>
E委員	<p>【委員長の選出について】 授業改善や授業評価、メディア教材についての造形が深い三尾委員にお願いできればと思うがいかがか。</p>
	<p>→ 委員長にA委員を選出</p>
委員長	<p>【副委員長の選出について】 副委員長には、行政側の委員を代表して吉野委員にお願いできればと思うがいかがか。</p>
	<p>→ 副委員長にD委員を選出</p>
事務局	<p>【趣旨及び経緯について】 (本事業の趣旨及び経緯の説明)</p>
B委員	<p>収入や学力を問わずに中学3年生全体を対象として実施するのか。</p>
事務局	<p>中学1・2年生も含めて全学年を対象に実施する。経済面は問わず、広く募集をかけて実施したいと考えている。</p>
B委員	<p>応募者が多い場合は何らかの選抜を実施するのか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。</p>
B委員	<p>選抜をする際の基準はあるのか。</p>
事務局	<p>選抜するための試験を実施して、その結果を事業者と共有して受講者を決める。</p>
B委員	<p>基本的には学力検査で決めるということか。また、そこで落ちてしまった生徒への対応は考えているのか。</p>
事務局	<p>そのとおりである。仕様書に記載しているが、対面講座から外れた生徒に対しては、ICT教材の配付を行うことでフォローする。</p>
事務局	<p><b>3 選考委員会選考スケジュール(案)について</b> (資料3の説明)</p>
B委員	<p>万が一、応募する事業者が0だった場合、募集期間の延長や再公募等を想定しているのか。</p>

事務局	仮に応募する事業者が0だった場合、改めて募集期間を設定するなどの対応を行う。
B委員	二次審査でプレゼンテーションを行う際に質問はできるか。
事務局	二次審査は15分間のプレゼンテーションを行った後に、15分間のヒアリングを設けるため、その際に委員から質問等を行ってもらおう。
委員長	質問は事前に調整する必要があるか。
事務局	第2回選考委員会の際に、共通質問を設けるかを決めてもらう。
事務局	<p><b>4 事業候補者募集要項（案）について</b></p> <p><b>5 採点基準表（案）について</b></p> <p>※資料4及び5を関連する項目として一括で審議 （資料4から資料5－2までの説明）</p>
C委員	人数について、1・2年生は各25人のクラスを作成し、2会場合わせて計50名で実施するのか。
事務局	1年生が計50名で三田中学校25名、青山中学校25名である。2年生も計50名で三田中学校25名、青山中学校25名である。
C委員	募集要項で提示している金額で事業者は実施ができるのか。実施できたとしても港区が期待しているクオリティで実施できるのか。
事務局	仕様書を作成するに当たって複数の事業者から見積を取得した上で、募集要項で提示している金額を設定しているため、実施できると見込んでいる。
C委員	複数の事業者とは、実績がないというわけではなく、それなりに実績がある事業者か。
事務局	そのとおりである。
A委員	仕様書上の受講人数の記載が少し読み取りにくいと思う。各学年25名の2クラス、合計50名×2学年で100名、3年生は30名が2クラスで60名となり、合計160名が対象ということか。最初は中学校1校で50名が上限だと捉えたため、応募する側が誤解する可能性がある。
事務局	記載方法を修正して、1年生が三田中学校25名、青山中学校25名、2年生が三田中学校25名、青山中学校25名というように記載する。
B委員	対面講座について、生徒が指定された会場に行くために必要な往復の交通費は家庭で負担するのか。さらに、クラス分けについて、1・2年生は各50名で三田中学校25名、青山中学校25名と会場別の実施し、習熟度は加味しないという認識で合っているか。また、3年生のクラス編成は5教科を学力別の実施すると書いてあるが、各教科を学力別で実施するの

	か。
事務局	交通費について、基本的には受講者が負担する。1・2年生は習熟度別のクラス分けではない。3年生は各教科の学力別ではなく、上位クラス・下位クラスと分けたかたちで5教科の講座を行う。補足すると、3年生に関しては入試の演習問題が中心となるため、志望校を考慮した状態でクラス分けを行う。教科ごとに分けるというよりは志望校を考慮して志望校への進学に向けた支援を行う。もちろん基礎学力の向上に向けた支援も行う。
B委員	I C T教材について、教材を配付して自習形式の学習になるのか。
事務局	I C T教材についてはご認識のとおりで配付のみを行い、講師による指導は予定していない。ただし、仕様書に記載のとおり、I C T教材を配るのみにならないように学習の状況は把握できるようにする。
D委員	講師の質をはじめとした事業者のレベルも大事かと思う。講師については、事業者によってかなり異なるため、質問しなければいけないところだと考えている。また、選抜テストを実施して受講者を決めると思うが、合格者の基準について事務局から教えてほしい。
事務局	申請を受ける段階で就学援助を受けているか等の家庭の事情などを踏まえて、選抜テストの合格者の基準は決定していきたいと考えている。
D委員	基準は明確にしたい。他の自治体の例になるが、足立区のはばたき塾では貧困家庭で塾に行けない生徒かつ学力の高い子どもとしており、基準が明確になっている。
A委員	どの学力層をターゲットにするのか分からないと講師や教材を用意できない。委員の判断材料にもなるため、再度事務局には確認してもらいたい。
事務局	3年生の上位クラスについては進学指導重点校に進学できる学力を求める。講師もその指導ができる質の高い人材を求める。
B委員	学校の勉強だけでなく、もっと発展的な学習をしないと不安だという生徒は沢山いると思う。学校や塾に行けない生徒について、それが不安で志望校を下げるというのではなく、志望校に行くために学力を伸ばせるようにするのが重要である。コンセプトが明確になっているかというのは事業者の提案において基本方針や業務への理解に大きく関わってくる。
A委員	B委員がおっしゃるところもそうだと思うが、ターゲットを絞らないで実施してみても事業者側のニーズが大きかったと実感する可能性もある。
D委員	学力のレベル感だけは明確にしておく必要がある。
委員長	【一次審査の通過事業者数について】 一次審査の通過事業者数について、3者程度でよいか。
D委員	他のプロポーザルにおいても大体3者なのか。

事務局	ガイドラインで3者程度とされている。応募が4者からあり、全ての事業者のプレゼンテーションを聞いてみたいという場合は4者とも通過させることも可能である。
委員長	<p>【二次審査について】 1者あたり、プレゼンテーション15分、質疑応答15分でよいか。</p> <p>→ 了承</p>
委員長	<p>【評価項目について】 評価項目や内容についてはいかがか。</p>
C委員	会場校に他校の生徒を呼んで午後8時半まで運営することは大変だと思うので、学校での運営方法を重視したい。午後8時半まで講座を実施し、午後9時までに撤収するとなっているが、慣れてくると質問したい生徒も出てきて午後9時までに撤収することが難しくなってくると思う。また、各講座の運用の人数を書いてもらった方が判断しやすいのではないか。
A委員	事務局では運用の人員について何名ほどを想定しているか。配慮が必要な生徒や緊急時に対応できる人員も必要であることを考えるとかなり多い人数になると思う。
事務局	2教室各2名の講師に加え、講座全体を総括して入退室を管理する責任者1名の合計5名を想定している。
E委員	事業者の提案で手厚く6名から7名程度配置するといった提案が出てくることを期待している。
B委員	ICT教材の対応について、評価係数が「×2」になっているが、対面講座に参加できない生徒やICTを希望する生徒が使用するため、もう少し高くしても良いのではないか。
D委員	そのとおりだと思う一方で、今回は対面講座がメインであるため、ICT教材はこのままでも良いのではないかと思うがいかがか。
A委員	D委員と同じ考えである。対面講座は事故が起きる可能性がある一方で、ICT教材は生徒が嫌だったら辞められることを考えると対面を重視した方が良いのではないかと思う。
C委員	仕様書で「受講者から相談を受けた場合は、親身になって対応すること」という記載がある。記載については、「進学について相談があった場合は発注者に報告すること」といった文言があっても良いのではないか。
事務局	相談があった場合には発注者に報告するように記載を修正する。
A委員	家庭での事情等について話す場合もあると思う。そういった場合、個人情報の観点等を考慮しながら発注者に共有するのか。個人情報の管理について留意しながら対応することを記載した方がよいのではないか。

事務局	個人情報の管理に十分留意することを記載するとともに、適宜、教育委員会に報告することを記載する。
A委員	講座の実施状況については都度報告するのか。それは仕様書に記載されているのか。
事務局	仕様書に記載している。基本は1か月おきに報告としているが、トラブル等があった際には都度報告するようにしている。
A委員	登下校の間に何かあった場合にはどのように対応するのか。
事務局	委託の管理外ではあるが、区立中学校に通っている生徒であるため、教育委員会で対応する。行方不明になった場合等は必ず教育委員会で対応しているため、同様の対応になるかと思う。
A委員	企画提案書は各項目Word 1枚に収めなければいけないのか。
事務局	枚数の増減は不可であるため、Word 1枚に収めてもらう。しかし、募集要項7（6）に記載のとおり補足資料を付けることは可能である。記載しきれない場合は10枚以内の補足資料を提出することができる。
	<b>6 閉会</b>